

## インドネシア

### タンジュンプリオク火力発電所3・4号機改修事業



プリオク発電所3号機

#### [ 借 款 概 要 ]

承諾額/実行額	1,590百万円 / 1,555百万円
借 款 契 約 調 印	1988年7月
借 款 契 約 条 件	金利3.0%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1996年1月

#### [ 事 業 概 要 ]

プリオク火力発電所3・4号機（50MW×2）のボイラー、タービン等の修理・更新を行うことにより、プラント効率を改善し発電能力の回復を図るもの。

#### [ 評 価 結 果 ]

原油資源の枯渇が問題視されていたインドネシアにとって、発電手段の多様化と既存の石油火力発電所の効率化は緊急の課題であった。

本事業によりボイラーやタービン等が交換され、4号機は1994年後半、3号機は1995年初頭にそれぞれ商業運転を開始した。発電端熱効率は3・4号機平均で29.9%へと上昇し（計画値31.3%）、ピーク発電量も45MW（計画値50MW）に達した。しかしながら、工期の遅延により、1990年～1993年の全国的な電力不足の時期に未改修のまま運転を続けたため、部品の消耗・老朽化が進行した他、政府の燃料政策の転換により発電コストも上昇したため、3号機は1996年に、4号機は1998年にそれぞれ運転を停止せざるを得なくなった。

発電所は、実施機関である国营電力公社（PLN）により定期的な維持管理がなされているが、PLNではコンバインドサイクル発電所への転換などを検討しており、その技術的可能性や財源確保などが模索されている。